

日本の税の歴史

税のしくみや使い道を学んできましたが、税はいつごろからあったのでしょうか。

645年 大化の改新以降

●租(そ)

田のとりいれの
ほぼ三分を政府
に納めた。



●庸(よう)

夫役につく。



●調(ちょう)

絹、糸、鉄、
海産物など
を納めた。



1603年 江戸時代

●年貢(ねんぐ)

農民が領主または地主に納めた。



●課役(かやく)

一定の期間労役につく。



●小物成(こものなり)

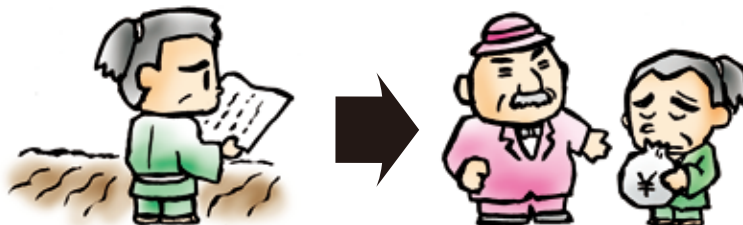
野菜、果物、海産物などを納めた。



1868年 明治時代

●地租改正(ちそかいせい)

政府が土地の値段を決めその
値段の3%を地租として土地
の持ち主が納めることとなっ
た。また、この頃から税金を
現金で納めることとなった。



1926年 昭和時代

●申告納税制度が採用された。

しんこくのうぜいせいど

申告納税制度
(しんこくのうぜいせいど)

国民が税を納めることを法律
上の義務として、税務署等に
申告すること。



1989年 平成時代

●消費税が設けられた。



消費税(しょうひぜい)
品物やサービスを買うことに
対して納める税金のこと。